戰史未曾有の

空中戰

非武裝の患者輸送機 鬼畜の二機を屠る

壯烈言語に絶す體當り

【大陸基地入江報道班員發】一挺の機銃、一發の彈丸もないわが患者輸送機の"赤十字"の標識を明かに認めながら惡虐非道の攻撃を加へ來つた米機十機と敢然と戰ひ、猛煙に包まれながら敵一機を巧妙な回避運動で揚子江に突込み、今はこれまでと他の一機めざし猛然体當りを敢行、遂に肉彈をもつて敵機を屠り、自らも壯烈大陸の空に華と散つたこの戰鬪と不屈の航空精魂こそは數を唯一の恃みとする敵空軍の反攻を斷乎撃伏せしめたわが在支航空部隊鐵火の氣魄を如實に象徴したもの、即ち寸鐵の武裝もなく唯鬪魂をもつて敵戰鬪機二機を屠つた赤十字の翼、空戰史上にも例の少いわが患者輸送機の敢鬪記をこゝに傳へたい

今月四日傷ついた勇士らを乘せてこの基地へ歸還途上にあつたその患者輸送機が杳として消息を絶つたので基地では手をつくして探索を始めた

（この機）は機長早川健二少尉（大阪市）操縦士脇田潤軍曹（宮城縣）の外には傷ついた數名が乘つてゐたが早川少尉、脇田軍曹はともに練達の腕前、事故を起したとは考へられない、鬪志の塊のやうな早川少尉と少年航空兵出身の脇田軍曹もこれに劣らぬ豪膽の勇士である今だに歸着せぬのは……と基地では万一を憂つてゐたがそれから四日目揚子江上流にゐた〇〇丸の三浦機之進船長が部隊長を訪ね、奇しくも眼前三百米に描かれた壯烈無比な患者輸送機の奮戰と鬼神をも哭かしむその最期を傳へた、以下は三浦船長が熱涙と共に語る當日の光景である、四日朝船が基地をさる〇〇キロの洋上を航行中快晴の空に飛行機を認めた、それは

（低空を）三百米位の緩い速度で飛ぶ、胴体に赤十字をハツキリ描いた友軍の患者輸送機だつた、船側で船長らは「御苦勞様だ、早くついて手當を受けるとよいが…」と云ひ交す間もなくまた「飛行機」と見張員が叫ぶ、今度は反對側に四機、その後方に六機と重つた編隊だ、見る間にヒユツと高度を下げ矢のやうに船の上へ突込んで來る、アツ敵機だと直感した、湖南作戰開始以來敵は連日の如く水路の補給部隊を狙つて攪亂に來る、この船もこれまでに數度攻撃された經驗があるので直ちに方向を變へて岸瀬につけようとした、敵機は船を狙つて來たらしいが、その時、同じ上空にゐた患者輸送機を發見した、敵は

（赤十字）のマーク明白な白日の空中で、われに抵抗の武器なしと見て專らに攻撃を加へ始めた、先づ四機編隊が二機宛に分れて猛烈に機關砲を射ちつゝ患者輸送機に襲ひかゝつた、P40戰鬪機だつた、機首のあたりに鮫が齒をむき出してゐる繪をどぎつく描いてゐるP40だつたのだ、こちらは全然無裝備で速力も遲い患者輸送機である、どうにも應戰の方法のないことは船上の人人にも明かだ、唯固唾を呑むのみである、然も殘りの六機は上空で悠々旋回しつゝ攻撃姿勢を執つてゐる「畜生」と思ふ間もなく最初の二機の攻撃でわが患者輸送機は無惨にも黒い煙を吹き始めた、殘念とも無念とも云ひやうのない氣持ちで皆齒をギリギリ鳴らすばかりであつた、患者輸送機はしかし平然と飛びつゝ

（高度を）下げて敵の攻撃を出來る限り避けやうとしてゐるやうに見られた、續いて二機がピユーと襲つて來る、と、その時輸送機は見事に旋回して攻撃を避け一瞬無武裝を侮つて猛烈に突込んだ敵機はこの巧妙な旋回に誘ひこまれてあつといふ間に自ら機体を揚子江に突込み凄じい水煙りをあげて沒し去つた、敵一機を鮮かに無手勝流で屠つたのだ、思はず船上で手を拍つて喜んだが、次の瞬間には上空の六機が一機宛ダダツと射ちまくりながら患者機に迫つてゐる、もう施す術もない、われ〱は只「アツ、アツ」と叫ぶばかりであつた、この時患者輸送機はますく\太くなる黒煙と赤い焔を引いてゐたが突然方向を變へ猛然と機首をめぐらせ丁度その時側方から攻撃しつゝ近づいたP40の眞正面に飛びかゝつた、何といふ勇氣さだ、全く

（武裝の）ない患者輸送機である、武器なく敵と戰つてゐるのだ、私らはあの時の光景を何と表現していゝか知らない、將に壯烈な肉彈の体當りだ、操縦者も乘つてゐる傷ついた勇士らも、そして赤十字の翼つてある機体も自ら一つの武器となつて敵機へ躍りかゝつたのだ、狼狽したP40が離脱する暇もなかつた、一瞬目の前一杯が眞紅になるやうな火花が空に散つて患者輸送機はぐつと敵戰鬪機を摑み一つの巨大な火の塊となつて眞逆樣に墜ちて行く、体當りだ！呆然と立つてゐるわれ〱の前方百米位のゆつたりとした長江の流れの中へ、患者輸送機と敵機とは一つになつたまゝ姿を沒したのだ、嚴かな一刻、誰も口一つ利くものもなかつた

少年工の生活はどうか

學徒勤勞隊が興味ある調査

大同製鋼では勤勞學徒として活躍中の八高生の一部で學術班を編成し勤勞の余暇を利用し大同病院指導の下に主として工員、學徒の健康管理部門の學術調査に當らせてゐるが早くもつぎのやうな興味深い諸調査が報告され關係者を喜ばせてゐる、調査第一部は「勤勞青少年は生活時間をいかに過してゐるか」について寮生より調査、第二部は「勤務青少年の疲勞、欠勤等」について職員修錬生より調査したものである（數字は百分比）

第一部―青少年工の生活時間

①休憩時間の利用　雜談四二・二、睡眠一八・三、喫煙一四・二、讀書八・八、運動五・九、何もしない四・五、洗濯一・六、將棋一・六、勉強一・一

②休日利用　映畫三八・一、外出一三・二、ハイキング一一・四、歸省九・五、洗濯七・一、讀書五・一、睡眠三・九、運動五、休養三・六、掃除二・一、魚釣一・四、衣服手入一、勉強〇・六

③毎日の勉強修養時間、二十分〇・七、三十分三〇・八、一時間三二・二、一時間十分〇・三、一時間二十分一・七、一時間半一四、一時間四十分〇・六、二時間一一・六、二時間半三・四、三時間三・五

④睡眠度、十分二五・九、普通五九・六、不足一四・五

第二部―修錬生の調査

①欠勤の理由　感冒一六・六、胃腸病七・六、その他病氣三九・四、疲勞二七・三、歸省、家事手傳ひ八・一

②欠勤と疲勞程度

	疲れない	多少疲勞	大變疲勞
殆ど欠勤せぬ	三一・八	五〇・七	[illegible]
時々欠勤	一六・九	[illegible]	[illegible]
度々欠勤		六〇・〇	四〇・〇

③生活と疲勞程度

	疲れない	多少疲勞	大變疲勞
自宅	三一・九	[illegible]	[illegible]
寮	一九・六	[illegible]	[illegible]
下宿	〇	六六・三	三三・七

遺言は"旋盤突撃"

火花散らす增產の汗二題

母の切なる愛情も母の子を思ふ一念も道は一つ「兵器增產」の烈々たる願ひであつた、次の二篇は肉親の愛を超え、米鬼撃つの職場に生きる感動の物語である

その一

朝比奈鐵工〇〇製作所の少年旋盤工水野俊一君は職場で默々敢鬪してゐる傍ら神經痛で一年余り病臥する母はる子さんの看護と幼い弟妹三人の面倒をみてゐる模範少年であつたが、あのサイパンの悲報が發表された日母はつひに危篤に陥り枕頭の俊一君に俊一や、よくお聞き、お母さんが死んでもお前は決して工場を休むでない、米英をやつゝけるために戰友の屍を乘越えて戰つて下さる兵隊さんに送る兵器―それを造るお前が悲しみに捉はれて怠るやうでは私は死にきれないから……と激勵して永眠したのだつた、俊一君はこの母の遺言に涙を斷ち切つて蹶つた、そして定刻までに工場へ驅けつけ翌日も母の葬儀をそこそこに濟ませて旋盤に取組んだのである、この少年の佳話は全工員を感動の渦に叩きこみ、安河内所長から金一封を贈るとともに近く縣商經會にも表彰方を申請することとなつた

その二

一年を通じて三ケ月分の收穫しかない「米なし村」築業郡草井村へ女子挺身隊の割當が來た、代用食を主食として增產に敢鬪する同村にとつて働き盛りの若い女子〇〇名を挺身隊に送ることは大きな打擊であつたが敢然志願して出た伊神與吉氏長女初枝さん（こ）次女よしのさん（こ）姉妹の場合も病床にある母の大變に生きる激勵が滲んでゐるのだつた、姉妹の母はるさん（三九）は產後が惡く病臥してゐたが看護の傍ら家事を切廻してゐる初枝さんと村役場へ勤めながら姉を助けるよしのさんから挺身隊參加の決意を打明けられて"いま一機でも多くと叫ばれてゐます、憎い敵をやつつけるためにお前達もうんと兵器を造つて下さい"と娘を激勵、こゝに重病の母を乘越えて姉妹の兵器增產戰列への突擊が逸早く實現したのだ、いま姉妹は仲よく陸軍造兵廠〇〇製造所で敢鬪してゐる

神前に誓つて

木造船の增產

サイパンの忠魂につゞけと木造船復仇增產運動に應へる愛知縣三河造船會社の突貫作業は・・去る一日から開始、作業時間の延長、增產競技など行つて士氣昂揚をはかつてゐるが、特に工場主任の羽山幸吉さん（四五）が十八年度分の計畫造船未完成の〇隻を果すべく運動開始以來毎朝出勤前ひそかに村の鎮守に參拜し完成祈願をつゞけてゐることが工員魂に一層拍車をかけ女子工員や少年工まで殘業に參加、本十五日はその進水式をあげるまでに漕ぎつけた

家郷だより

福井　福井縣敦賀郡中郷村古田刈竹中竹松さん一家は十八年度に四千九百枚莚を織り上げ縣下の模範として優等賞（知事賞）に入選したが本年度は五千五百枚生產を目標に食糧增產の余暇を利用必死の敢鬪中▲敦賀機關區では客車網棚の補修用網糸が足りぬので小浜線で客車の網を外し丸竹を縛りつけて網代用の竹棚列車を登場、近く全線に適用方を各局へ呼びかける

石川　縣商報調査による縣下の工場農園はその耕作面積六万四千三百十五坪で（工場は百十九）縣下全工場空地の約十分の三に當る

滋賀　大津市の接客業組合は戰時食糧販賣規格を改正して料理の最高一人前三円以下に一円切下げ、定食は松一円、竹七十錢、梅五十錢と定め野草調理の獎勵も始める

長野　木曾の御嶽登山者は昨年の一割八分でその多くは出征者の家族、しかも登山道に行はれてゐる土木工事に協力し校、洋灰の運搬作業を行つた▲可憐な少女たちが手に手に紅提灯をかざして夏の夜の街を唄ひながら練り歩く松本名物ボンボン唄風景を前線勇士に贈つて心の糧とするため海軍省囑託の撮影隊が十六日夜松本城外で實況を撮影する

三大臣熱田樣參拜

新任報告參拜に西下中の前田運通、大達内務、兒玉國務の三大臣は十四日十三時一分名古屋驛着列車で京都から來名、吉野愛知縣知事、佐藤名古屋市長、河合名鐵局長、生田名遞局長その他の出迎へを受け直ちに熱田神宮に參拜、大東亞戰必勝を祈願したのち神前で三大臣打揃つて記念撮影を行ひ十四時七分熱田驛發上り列車で歸京した

【寫眞は參拜を終へた大臣一行＝右端の人・向つて左から大達、前田、兒玉の三相】

この教師を見よ！

學徒の夜業阻む某教諭

見習工の氣で働く先生

進學よりも增產―と兵器生產に飛び込んだ學徒はその赤誠を戰爭一本に集結して勝たずんばやまずの鬪魂を燃やし、いまや重要兵器生產職域の推進力となつてゐるがこの學徒陣頭指揮の大任に當る付添教員の一部には勤勞を厭ふ者さへあり、逆に學徒や工員からもその善處が要望されてゐる、某工場へ出勤した某專門學校の教師は戰局いよく\重大化を加へるこのごろ殆んど工場へ姿を現はさず學徒を淋しがらせてゐるといふ實情にあり、また或る工場では學徒の深夜作業がはじまるといふ發表のあつた日、双手を上げて一同增產の熱情を示したのに居合せた某中等學校教師が「工員は兎も角、學徒諸君は將來ある身だから一時の感情に激して身体を酷使してはいけない、思ひ止まつて呉れ」と學徒の敢鬪魂を阻んだといふ、これが果して學徒を率ゐて敵米英擊滅への總進軍に加はる學徒を教へる人の態度であらうか、盟邦ドイツの大學教授が國境に迫つた赤軍を迎へ擊たんと率先出動してヒツトラーユーゲントと共に塹壕を掘つてゐる事實を何と視るか、時局に背を向ける師よ、まづ次の例を見るべし、まことに戰ふ皇國民教育の神髓はこゝにあるのだ

かくてこそ"教師"

井出先生の敢鬪ぶり

この春、名古屋陸軍造兵廠〇〇製造所に挺身以來、文字通り必死の奮鬪を續ける岐阜縣小[illegible]女子商業學校生らの陣頭に起つ同校教員井出はな江さん（三二）は「私を教員として扱つて下さつては生徒を工場で指導出來ません、自信がつくまで養成工として働かせて下さい」と志願、毎日十二時間ぶつ通しで奮鬪、先づ養成工の技術を得た井出さん今度は機械工を志願し再び養成工として學び且つ增產し、機械工としても一人前となつた、この熱誠に感動した工場長が「貴女はもう立派に挺身學徒を指揮する實力を得られたから無理をしないやうに」とすゝめたが「工場に來たからには一年生になつたわけです」と相變らず晝夜を分たず油と汗にまみれて働き續けその間に生徒の細い面倒を見てゐる

學徒と共に油に塗れる井出先生（左端）

この先生と一緒ならと語る生徒

この先生の下に捨身の敢鬪を續けてゐる女子學徒は語る

今こそ日頃の先生の教へを活かして起つべき時とこゝへ勇んで來ましたが、初めは氣ばかりあせつて仕事が出來ず泣きたくなることもありましたが、井出先生の働かれる姿に勵まされ、この頃では一つの苦しみもなくなりました、先生と同じやうに働きたいと頑張つてゐます

一工員の讃辭

井出先生の働き振りを見るにつけ憤激に堪へないのは〇〇校の教諭です、三日程來て工場をブラ〱して一日に三時間も事務をとると歸つてしまひ、次には一週間もの間一人も顔を出されなかつた、また〇〇校の先生は現場事務所で編物をしたり、雜誌を讀んだ上、時間の來ぬ先に歸つてしまひました、井出先生の姿を見て仕事をされるやうになられたらし、また松本高等女學校の先生は全員、學徒と一緒になつて働かれ、深夜作業も率先してやつてをられます」

豐橋陸士卒業式

豐橋第一陸軍豫備士官學校卒業式は十四日擧行、畏き邊りの御賜賞を傳達式終つて竹尾英一候補生の代表卒業申告あり、つゞいて陸軍三長官主催の壯行會に臨み、勇躍原隊へ復歸した、優等候補生は次の通り

【歩兵生徒】竹尾英一（三重縣河藝郡明村）學林（滋賀縣坂田郡坂田村大字阪）▲同日比野信▲大橋明男（福井縣敦賀郡粟野村）【砲兵生徒】吉原信雄（埼玉縣）同勝田利雄（愛媛縣）

勤勞者日用品配給組合支部設置

愛知縣勤勞者日用品配給統制組合は十四日理事會を開催、豐橋、岡崎、半田、一宮に四支部を設置、各々配給所を新設することに決した

防空用品八點を推薦

大日本防空協會第五、六回中央審査委員會は十四日次の八點を防空優秀品として推薦した（カツコ内は販賣價格）△竹沢式擔架（一四四円五〇）△本多式竹擔架（一三四円五〇）△竹製擔架（九円二三）△神武兜（八円）△小寺式鉢鐵防空笠（六五）△小野式必勝兜（一〇円三〇）△大鳥式消防ポンプ（一五八円）△防空用電燈カバー（三二）

岡崎署の慰問隊

岡崎署では工員慰問激勵隊八班を編成、十五日から管内工場に出動し徹夜作業で頑張る戰士を慰問

獻金　名古屋市榮區御幸本町通愛知縣工業統制組合は軍用機獻納資金として八万円を十四日名師團兵部へ寄託

投稿歡迎△葉書三百字迄△宛名中部日本新聞「点」係

待避壕の蓋是非

◇…中京の待避壕は當局の指導と市民の熱意で漸く完備の域に達したが出入口に蓋をすることが流行してゐるのは何故か、蓋は爆風除けと雨水防ぎなら良いかも知れぬが一朝有事の際は、この蓋あるがため外部との連絡が遅れたり、肝腎の初期防火の機會を失ふ心配はないか

◇…待避は避難のためではない、國土防衛の突擊寸前の態勢であるのだ「田樂が外壕を掘つてゐたら何時の間にか住家諸共敵の手中にあつた」といふ話がある、資材あるに任せ徒らに有害無益の徹底防備を飾ることは未だ眞の即戰態勢になりきらぬ證據だ、これに類した防空設備がまだ多い、當局の速かなる善導を望む（名古屋・青空生）